

2026年5月12日

日本ハム株式会社

2026年3月期第4四半期 Web 会議 議事録 主な Q&A

日時：2026年5月8日 金曜日 18:00～19:00

1. 中東情勢について

質問：中東情勢に伴うコスト影響（約50億円）は、事業利益610億円計画に織り込み済みか？

回答：国内の加工・食肉事業の主に包材・燃料を織り込み計画した。今後は国内の消費環境を踏まえ、価格改定も検討しつつ柔軟に対応し、コストを吸収したい。

2. 加工事業の FY2027/3 の計画について

質問：国内加工の内部改善（64億円）の確度は？

回答：苦戦が続いた中華名菜等は販売戦略が奏効し始め、FY2026/3の4Qに入り前年を超えた。また、構造改革により収益性が改善しつつあり、利益創出の質も変化してきた。収益性の高い主力ブランド販売を強化し粗利益を拡大させる。また、構造改革の継続や新商品開発の強化で底上げを図る。

質問：海外加工の赤字解消計画の見通しは？

回答：収支均衡時期は2Q以降となる見込みだが、製造拠点機能の再定義も含め改善を進める。

3. 食肉事業の FY2027/3 の計画について

質問：日本ホワイトファーム(株)知床食品工場火災や飼料等のコスト上昇影響と対策は？

回答：火災影響等を37億円織り込む一方、国産鶏肉・豚肉相場は堅調に推移している。国産鶏肉の他農場増羽、社外調達強化や国産豚肉の生産性改善を行い生産で利益を取り込みたい。また、コスト上昇に対しては販売戦略の深化や価格転嫁を進め、早期の回復を図りたい。

質問：豪州牛肉事業の中国向け関税影響と今期の上振れ余地は？

回答：前期中に前倒しで出荷された影響を20億円見込んでいる。販売環境は引き続き堅調であるため、収益機会を確実に取り込み、計画を上回る利益創出を目指したい。

4. 資本戦略について

質問：自己株式取得の背景や今後のキャッシュアロケーションの考え方は？

回答：継続的なROE向上とDOEを意識した株主還元策として、今期も400億円の自己株式の取得枠を設定した。営業CFは安定的に創出できるようになってきたため、中長期での成長実現に向けた投資も行いたい。成長投資と還元のバランスを意識したアロケーションを行いたい。

以上